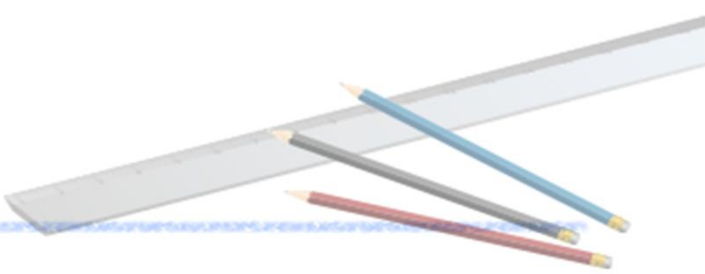


追求の授業をつくる会
春のセミナー 2026.3.28

「ひばりのす」の授業について



ひばりのす

木下夕爾

ひばりのす

みつけた

まだたれも知らない

あそこだ

水車小屋のわき

しんりょうしよの赤い屋根のみえる

あのむぎばたけだ

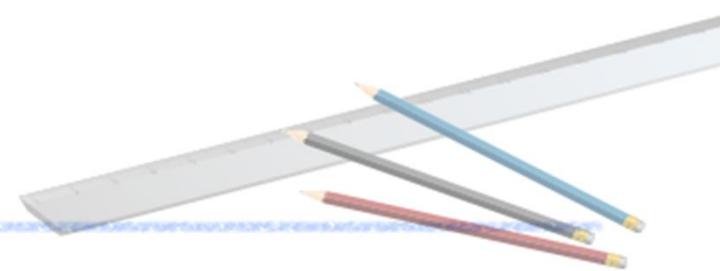
小さいたまごが

五つならんでる

まだたれにもいわない

本日の演習の流れ I

※あくまでも一例です。他の展開も考えられます。



導入

- 1 「ひばり」を確認する
- 2 「ひばりのす」を確認する
- 3 連を確認する
- 4 教材に形式番号を付記する
- 5 教材の内容(ストーリー)把握のための音読をする
- 6 それぞれの読み(内容把握)を出し合う
- 7 それぞれの読み(内容把握)の違いを明らかにする

3連

- ⑩ ⑨ ⑧
まだたれにもいわない
またたれにもいわない
五つならんでる
小さいたまごが

2連

- ⑦ ⑥ ⑤ ④
あのおぎばたけだ
しんりょうしよの赤い屋根のみえる
水車小屋のわき
あそこだ

1連

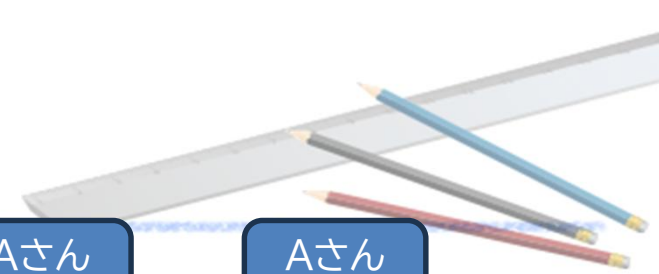
- ③ ② ①
まだたれも知らない
みつけた
ひばりのす

ひばりのす

木下夕爾

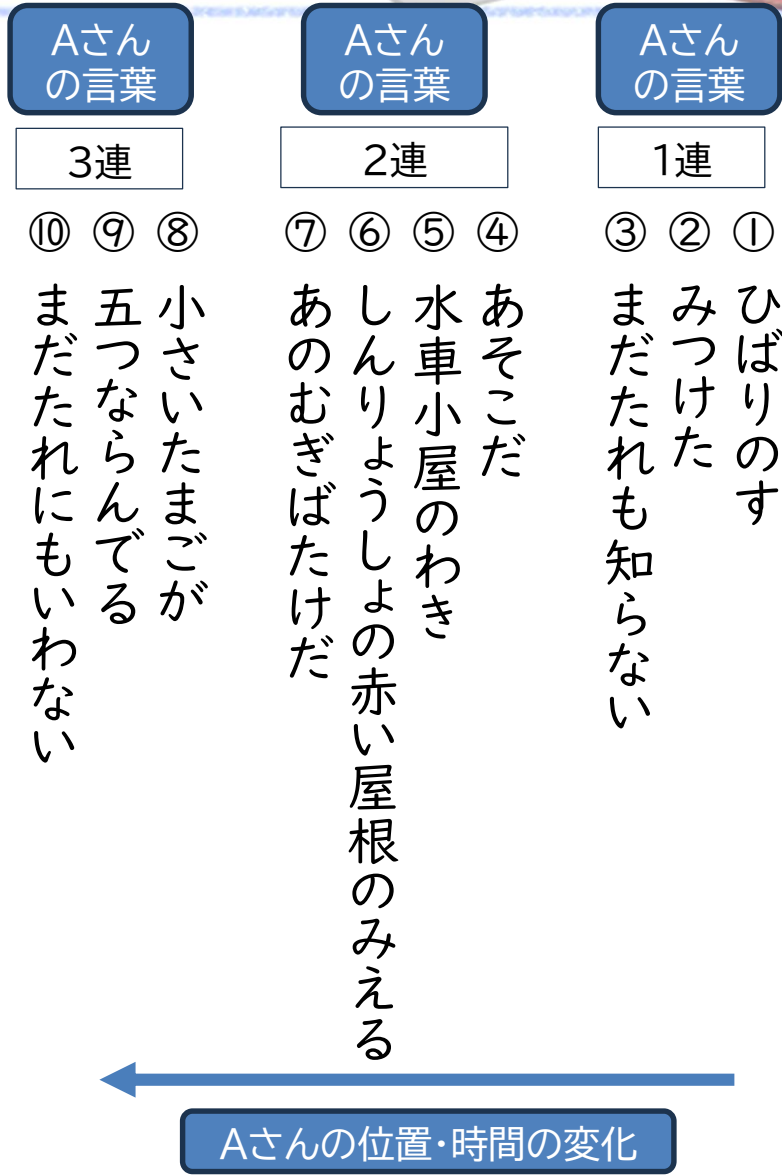
本日の演習の流れ II

※あくまでも一例です。他の展開も考えられます。



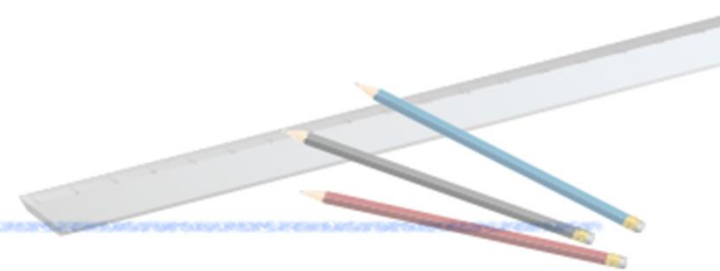
前提づくり

- 8 問い①〈1連～3連は誰の言葉か〉
- 9 問い②〈1連～3連は同時の言葉なのか〉
- 10 問い③〈どうして、1連～3連と分かれているのか〉
- 11 問い④〈1連～3連はどのような違いがあるか〉
- 12 確認 [1連～3連は、Aさんの移動・時間の経緯がある]



本日の演習の流れ III

※あくまでも一例です。他の展開も考えられます。



追求 第1段階

- 13 問題(疑問点)を提出させる
- 14 問い⑤ 〈2連時はどこにいるのか 他に誰がいるのか〉
- 15 確認 [2連は、誰かに話していることを想像している]
- 16 音読

3連

⑩ ⑨ ⑧
まだたれにもいわない
五つならんでる
小さいたまごが

2連

⑦ ⑥ ⑤ ④
あのおぎばただ
しんりようしよの赤い屋根のみえる
水車小屋のわき
あそこだ

1連

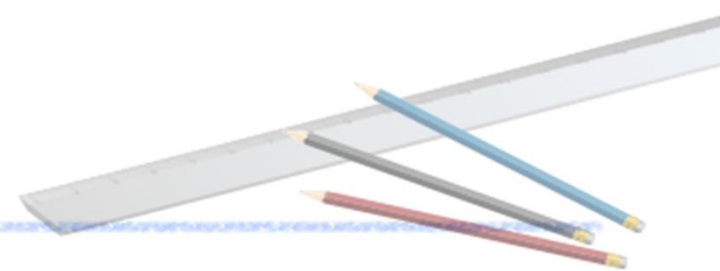
③ ② ①
まだたれも知らない
みつけた
ひばりのす

ひばりのす

木下夕爾

本日の演習の流れ IV

※あくまでも一例です。他の展開も考えられます。



追求 第2段階

17 問い⑥ 〈何のことを、誰にも言わないのか〉

18 問い⑦ 〈なぜ、言わないのか〉

19 確認 [たまごの姿が衝撃的だった]

3連

⑩ ⑨ ⑧
まだたれにもいわない
五つならんでる
小さいたまごが

2連

⑦ ⑥ ⑤ ④
あのおぎばたけだ
しんりょうしよの赤い屋根のみえる
水車小屋のわき
あそこだ

1連

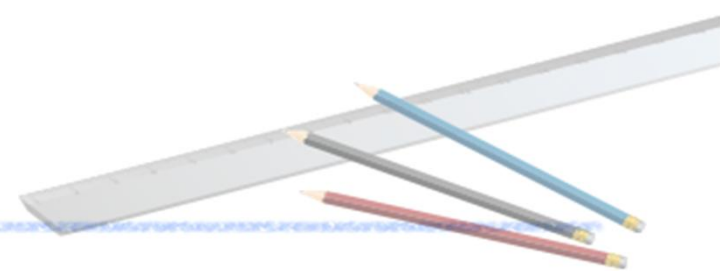
③ ② ①
まだたれも知らない
みつけた
ひばりのす

ひばりのす

木下夕爾

本日の演習の流れ V

※あくまでも一例です。他の展開も考えられます。



追求 第3段階

- 20 問い⑧ 〈なぜ、わざわざ場所を言うことを想像するのか〉
- 21 問い⑨ 〈なぜ、2連のような言い方をするのか〉
- 22 問い⑩ 〈1連の前には何があったのか〉
- 23 確認 [1連の前にひばりの巣の場所のことで議論になっていた]
- 24 音読

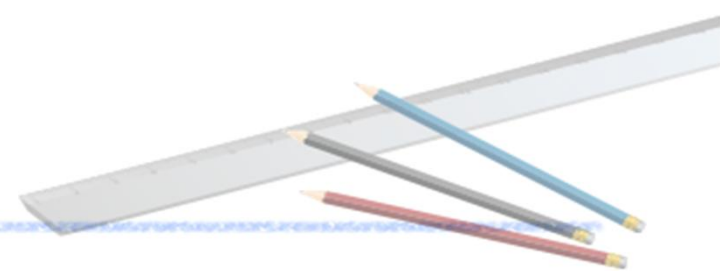
3連	2連	1連
⑩ ⑨ ⑧ まだたれにもいわない 五つならんでる 小さいたまごが	⑦ ⑥ ⑤ ④ あのおぎばただ しんりようしよの赤い屋根のみえる 水車小屋のわき あそこだ	③ ② ① まだたれも知らない みつけた ひばりのす

ひばりのす

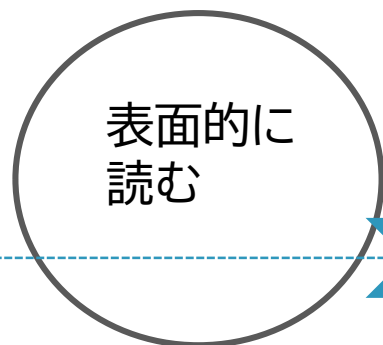
木下夕爾

?

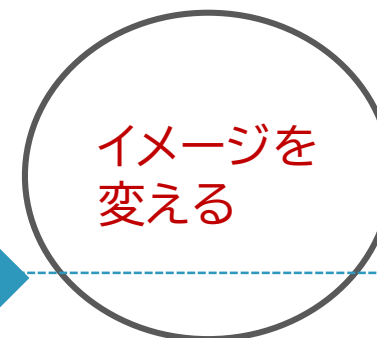
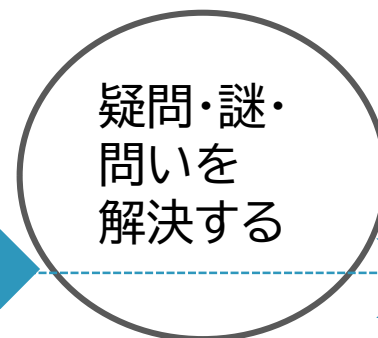
今回の演習の目的



読んで、分かった
つもりになる

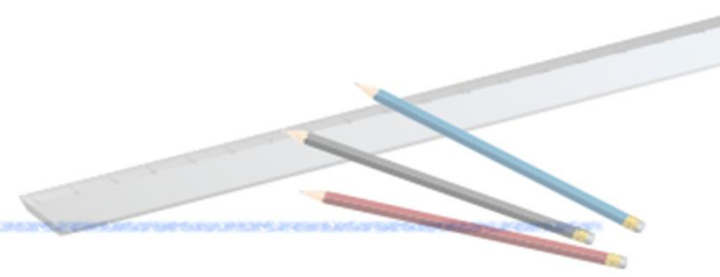


疑問や問題を解決することで、分かったつもりを
否定し、本当の理解に至る



子どもたちの授業の経験は、表面的な理解を発表し合うだけで終わっていることが多いでしょう。それは大雑把に教材を眺めて得た単なる印象だけを扱っていると言えます。それで、分かったつもりになってしまいます。子どもたちは何を学んだことになるのでしょうか。新しい学年になって、最初の授業が、それまでの同様の授業であれば、子どもの授業への期待感は一気にしぼんでいってしまうかもしれません。国語で、実は分かっていなかったことを実感し、本当に分かる経験をすることで、これからの授業への期待感をもたせることが目的となります。

「ひばりのす」の解釈について

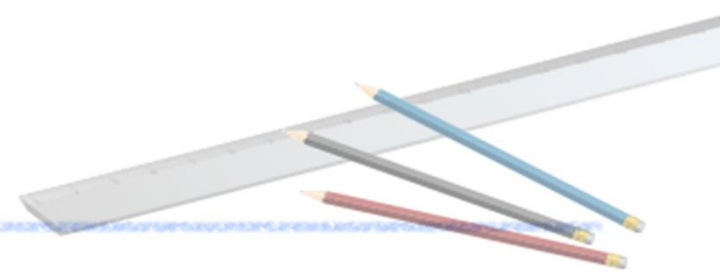


彼（作者）は、ある麦畑の近くにいる。この麦畑は、以前友だちとの話題にあがったところだ。友だちからは「その麦畑には絶対にひばりの巣はない」と言われていたが、彼は「ひばりの巣はある!」と主張していた。そのような経過があったから、その麦畑の中から、一羽のひばりが飛び立つのを見た時、彼は「ひばりのす 見つけた」と興奮したのだ。つまり、ひばりが飛び立ったということは、そこには巣があり、餌を与える雛がいるはずだからである。当然、この巣のことはまだ誰も知らない。

彼は、その巣を見るために、麦をかき分け、ひばりが飛び立った辺りに近づいていく。頭の中で、友だちに「あそこだ（前に話題にあがっていた麦畑だ）。・・・あの（みんなが絶対にないと言っていた）むぎばたけだ。」と、場所をじわじわと伝えて、自慢をしている場面を思い浮かべながら進んでいく。見つけたことよりも、場所のことを自慢するのは、以前の友だちとの話題にあがったところだからだ。自分の主張の正しさを言い、友だちにぎゃふんと言わせたいのだ。

そういう期待感でわくわくしながらようやく巣の場所にたどり着くと、そこには雛ではなく、まだ産み立てのたまごを5つ見つける。その5つのたまごからは精一杯生きようとする意志が感じられ、それがたまらなく愛おしく見えた。それが「ちいさいたまごが五つならんでる」という発見である。そう感じた時、彼に、この生命を大事にしたいという思い生まれ、「まだいわない」と自分の友だちに自慢したい気持ちを封印する。

4月はじめの授業のポイント



「思う」から「考える」へ

教材を「見る・読む」ことから、私たちは何か「思う」ことをします。ただそれは、考えているわけではありません。「考える」ためには、「問題」が必要だからです。「問題」があってはじめて「考える」のです。

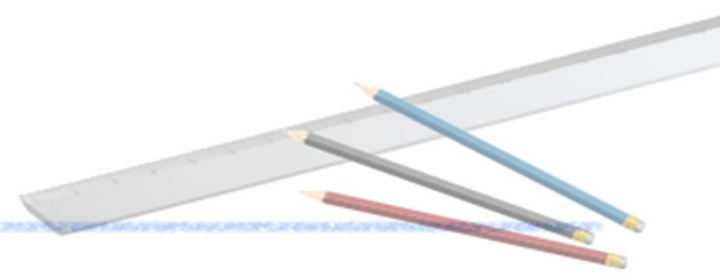
そして「思う」はそれほどの変化を生みませんが、「考える」は、考える過程で自分の考え(イメージ)にいろいろ変化が生まれます。学習はその変化の過程が重要なのです。

つまり、〈自分の考え(イメージ)を変える〉というのは主体的な学びそのものです。教師が教え込む授業では、ただ覚えるだけで、考えることは生まれません。

子どもの主体的な学びを大事にしたいなら、4月はじめの授業から、「問題」をもち「考え」、その結果としての「考え(イメージ)の変化」を楽しむ経験を積み重ねる必要があります。その経験が子どもの学習能力として培われていきます。

子どもはそれまでの経験から、「授業は先生が教えてくれるもの」という価値観をもっていると想像できます。その価値観を変えることが4月はじめには特に重要です。そして「この先生との授業は楽しい、今までとは違う」と思わせることをめざします。

教材を読むということ



分かったつもりにならない

昨今、SNSなどからの情報の一部だけを切り取って、正しく意味を捉えずに判断する傾向があると言われています。つまり単語レベルで理解したつもりになる「キーワード読み」と言われるものです。日常生活では、それで大きな不便はないように思いますが、実は、それが学習の妨げ、とりわけ国語の学習の妨げになっているのです。

言葉・文には、そのウラに隠された本当の意味・内容があります。それを読まないで本当に理解したことにはなりませんし、それを読んでではじめてその教材の面白さ・価値に出会うことができます。

みなさんは、なぜ「大造じいさんとガン」や「一つの花」「ごんぎつね」などが長年、教材として残っているのか分かっていますか。それは、それほどの価値があるからなのです。その価値を見つけないと、その教材を学ぶ意味はない、とも言えます。

決して「分かったつもり」にならないで、教材の一つひとつの言葉を読みとり、新しい読みの発見をすること、いわゆる「教材解釈」が授業の前提となります。子どももその発見をすることを、授業の楽しみとするのです。教材解釈は、教師の大切な仕事の一つです。

×毛

